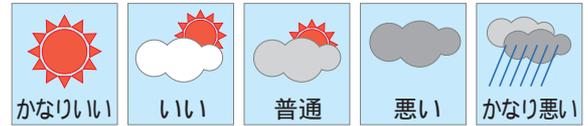


業種別下請関連企業の 現況と見通し



(対象期間 平成14年10月～12月)

業種加工内容	ポイント	現況	見通し
【繊維・繊維製品】 	<p>今期「受注単価が値下りした」が22%から56%に大きく増加している。一方、「値上りした」は5期連続で0となっており、単価下落の傾向がますます顕著になっている。「業界全体が下向き」の76%も全業種中最多である。こうした状況の下、高級品を製品の保管・出荷まで一貫して請け負う力のある企業に仕事が集中していく傾向が見られる。</p>	 かなり悪い	 かなり悪い
【合成樹脂製品】 	<p>「売上が増加した」の38%及び「利益が増加した」の29%はともに前回と全く同じであった。一方、「売上が減少した」が19%から38%に、「利益が減少した」が38%から48%に大きく増加しており、二極分化の傾向にある。自動車部品及びカメラ部品を手がけている企業に好調なところが多い。</p>	 普通	 普通
【鑄造】 	<p>「売上が増加した」が8%から43%に、「利益が増加した」が15%から46%に大きく増加しており、これまでの不振とは打って変わって好調な企業が多い。しかし、期中に原材料が軒並み値上げされたほか、12月以降は受注減となっている企業もあり、今後については不安材料が多い。</p>	 普通	 悪い
【鉄骨・製缶】 	<p>「操業度100%超」が25%から51%に増加し、生産活動が上向いているものの、「受注単価が値下りした」の59%は全業種中最多であり、単価下落の傾向は続いている。「他県の単価が安すぎて見積りに勝てない」という意見もあるが、反面、本県企業としてもコスト構造の改善を求められている状況にあるとも言える。</p>	 悪い	 かなり悪い
【機械加工】 	<p>「売上が増加した」が14%から29%に、「利益が増加した」も11%から24%に増加しており、2期ぶりに回復に転じた。一方、「先行きはわからない」の15%は全業種中最多であり、不透明感も強い。業界別では自動車安定しているほか、建設機械が好調。ただし、後者については主に中国での需要増に伴うもので、一過性に終わる可能性もある。</p>	 いい	 普通
【プレス・金型】 	<p>「売上が増加した」は3期連続、「利益が増加した」も2期連続で増加している。また、「業界全体が上向き」が前回の0から14%に増加しており、改善の傾向が著しい。コネクタをはじめとする精密金型の企業が好調である反面、プレス加工主体の企業は苦戦を強いられている。</p>	 いい	 いい
【金属製品】 	<p>「売上が増加した」の46%、及び「操業度100%超」の43%は全業種中最高である。精密板金・表面処理ともに営業力のある企業の健闘が目立つが、これは、こまめに得意先に出向いて少ないチャンスをものにした結果と考えられる。逆に、売上及び利益が減少した企業には、大口得意先の不振に影響されたところが多く見受けられる。</p>	 いい	 普通
【組立】 	<p>「売上が増加した」が3期連続で増加している一方、発注企業の海外シフトが原因と見られる発注打ち切りや減産に追い込まれた企業も少なくない。ハイクラスのクリーンルームを設備しているなど、価格以外のセールスポイントを持っている企業の健闘が目立つ。</p>	 悪い	 かなり悪い

天気図は、「下請中小企業経営動向調査 結果並びに下請取引あっせん業務の窓口から見た生産状況、収益性を総合的にとらえたものです。『精密板金』『表面処理』については『金属製品』に取りまとめています。

お問合わせ先 取引支援課 TEL 019-621-5385 FAX 019-624-5480
 URL <http://www.joho-iwate.or.jp/torihiki/> E-mail sitauke@joho-iwate.or.jp